TABLE FOR TWOかわら版　補足資料
～Vol.17 タンザニア視察報告～

2014年7月発行

TFTプログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTABLE FOR TWOプログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆さまにお届けするための補足資料です。貴団体内でのコミュニケーションやPRにご活用いただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒宜しくお願い致します。

＜補足資料Vol.17をお送りするにあたって＞

2014年5月にTFT事務局の安東が、タンザニア連合共和国のムボラ村を訪問しました。ムボラ村では、17の小学校で給食が提供されています。今回の補足資料では、給食のメニューや調理方法、今後にむけての取り組みといった、給食プログラムの詳細な実施状況についてご報告します。

- 2ページ目以降は掲示板への掲出や、卓上POPとしてご利用いただけます
- かわら版本紙、補足資料ともに、TFTのウェブサイトからダウンロードいただけます

＜日本でのTFTプログラムの実施状況＞

計653の団体で実施中（2014年7月16日現在）

内訳	団体数	比率
1. 企業(社員食堂、自販機)	310	47%
2. 学校	120	18%
3. 店舗・小売食品	133	20%
4. 官公庁・公的機関	45	7%
5. 病院	17	3%
6. その他	28	4%
合計	653	100%

＜これまでに寄せられたご寄付＞

＊TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

2007年	5万6,737食分	
2008年	59万7,652食分	
2009年	212万2,627食分	
2010年	381万5,507食分	
2011年	579万8,653食分	
2012年	593万2,197食分	
2013年	638万918食分	
2014年（6月末まで）	248万166食分	⇒合計2,718万4,457食分

内陸部のムボラ村は、沿岸部よりも一足早く乾季に突入します

タンザニアでは3月～5月は大雨季にあたります。視察を行った5月半ばの時点では、国際空港のある沿岸部の主要都市ダル・エス・サラームでは昼間の気温が30℃に上り、湿度も高く日本同様に蒸し暑い気候でした。

TFTの支援先ムボラ村は、ダル・エス・サラームから飛行機で西へ2時間ほどの場所にあります。ムボラ村も気温は高いものの、5月半ば時点で既に乾季に突入しており、空気も地面もカラカラに乾いていました。

乾季になると、一部の井戸が涸れてしまうため、近隣住民は遠方まで水汲みに行かなければならなくなります。

学校菜園では、乾燥に強い作物を育てています

ムボラ村では、17の小学校で学校給食を提供しています。各学校では敷地内に学校菜園を作り、収穫物も給食の材料に使っています。

サツマイモやキャッサバ、トウモロコシ、かぼちゃ、ヒマワリなど、乾燥に強い作物を中心に栽培しています。ヒマワリは種から油を絞って調理に使ったり、花を販売して現金収入を得たりしています。

各学校には1名ずつ農業担当の先生がいます。先生の指導のもと、生徒たちが当番制で学校菜園を耕作しています。

ムボラ村では多くの住民が自給自足を営む零細農家のため、将来は農家になる子どもがほとんどです。学校菜園は、子どもたちの職業訓練の場にもなっています。

マダハ小学校 農業担当・ムブワガ先生(左)

給食に使う食材は、日によって少しずつ変えています

給食メニューの中心となるのは、トウモロコシの粉をお湯で練って作った「ウガリ」と呼ばれる主食です。日本のお米のような感覚で、ウガリとおかずを一緒に食べるのがタンザニアの伝統的な食事のスタイルです。

TFTの給食ではウガリに豆のスープをかけるのが基本的なメニューです。スープには日替わりで、トマトや玉ねぎ、キャベツなどの葉物野菜、ビクトリア湖でとれた小魚の干物などを加えます。また、オレンジなどの果物を添え、水分やビタミンを補っています。

トウモロコシや豆の袋

玉ねぎ、トマトなど野菜も豊富

小魚の干物でカルシウム摂取

カ仕事の調理は2人がかりで

ウガリの作り方は、トウモロコシの粉とお湯を鍋に入れて混ぜるだけです。簡単と思われるかもしれませんが、混ぜている間に粘り気が出てきてお餅のような状態になり、非常に重たくなります。実は大変な重労働です。2人がかりで1時間ほどかけて作ります。

調理人には地域住民たちから給料が支払われるなど、地域で学校給食プログラムを支える動きが拡大しています。

朝8時半頃から火おこしなどの準備を始め、13時～14時頃に給食が提供されます。当番の生徒数名が早めに給食室へやって来て、フルーツを切ったり、ウガリやスープが入った鍋を屋外の提供台へ運んだりと、準備を手伝います。

大学進学を夢見る子どもたち

TFTの学校給食が始まる前、ムボラ村での小学校の出席率は50%程度でした。それが今や、90%近くに上っています。

「子どもにはしっかり給食を食べて勉強を頑張ってほしい」、「 給食が始まって本当に嬉しい。できる事があれば協力したい 」といったコメントが、子どもたちの両親から寄せられています。

イビリ小学校の子どもたちに、大学へ進学したいか、と質問したところ、ほとんどの子どもが行きたいと答えてくれました。

2011年に学校給食プログラムがスタートしてから3年、子どもたちの学習意欲の高まりが顕著に現れています。

TABLE FOR TWOスタッフより

各小学校の校区から2名ずつ、立候補制で選ばれた方々が、小学校の給食事業の監督や効果測定を行っています。どの方も意欲に溢れ、誇りをもって仕事をしていました。

外部からの支援に頼りきるのではなく、自分たちの手で村を良くしていくんだ、という姿勢は、非常に心強く感じました。

（TFT事務局長:安東）

ミグングマロ小学校を訪れた際、1人の男の子が、私たちの持っていたスワヒリ語会話集で英語の勉強を始めました。

授業が終わり帰宅前の時間帯だったのですが、もっと学びたい、という気持ちが彼の真剣な眼差しに表れていました。学校給食が、彼のような子に教育の機会を提供できる一助となっていることを思うと、感無量でした。